



G7伊勢志摩進捗報告書

1. 目的

- ◆ G7として開発関係コミットメントの達成状況を評価するために作成した包括的な進捗報告書。

(注: 2010年ムスコカ・サミット(加), 2013年ロックアーン・サミット(英)に続く, 3回目の報告書)

2. 報告書のポイント

- ◆ 2002年カナナスキス・サミット(加)から2015年エルマウ・サミットまでの10分野(※), 51件のコミットメントについて, 5段階で進捗を評価。

(※) ①援助量・援助効果, ②経済開発, ③保健, ④水・衛生, ⑤食料安保, ⑥教育, ⑦平等, ⑧ガバナンス, ⑨平和・安定, ⑩環境・エネルギー

- ◆ G7全体としてコミットメントは概ね順調に達成。多くが2番目以上の評価(Excellent又はGood)。特に保健, 食料安保, 教育, ガバナンスの分野で進捗あり。

- ◆ 援助量についてのみ各国別の評価: 日本は上から2番目(Good)の評価。

3. 持続可能な開発目標(SDGs)との関係

- ◆ G7としてのコミットメントの達成取組は, SDGsを含む2030アジェンダの進展に貢献するもの。市民社会を始め, 全ての関係者と共に開発課題に取り組んでいくことが重要。